

記 入 日 2014 年 1 月 17 日

## 1. 概 要

実践団体名	熊本県阿蘇郡南阿蘇村立久木野中学校		
連絡先	校長 坂梨 光一 (0967)67-0057		
プランタイトル	自らの命を守り抜く防災教育		
プランの対象者※1	中学生	対象とする 災害種別※2	災害全般

※1 別紙「記入上の留意点」の1. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※2 別紙「記入上の留意点」の2. 項目から1つ選択し、記入してください。

## 【プランの目的・ここがポイント!】

生徒自らが考え行動できるようになるために、日頃の学校生活や授業の中で主体性を育むとともに、防災の視点から地域の地形や自然環境をしっかりと理解し、実態に即した防災を考え実践することができるようにすること。

## 【プランの概要】

- ・地域の自然・環境を知ること
- ・総合的な学習の時間を中心に調査研究を進め、自分たちができることを考え実践すること。
- ・阿蘇火山博物館、熊本地方気象台、県土木部砂防課など、関係諸機関の協力を得て、防災に関する情報や知識を確かなものにする。
- ・自分たちが学んだことを地域へ情報を発信したり共有したりすること。
- ・防災の視点に立った授業（総合的な学習の時間・道徳・学級活動）を構築し、実践していく。
- ・消防署を中心とする関係機関、学校安全委員会と連携した自主防災訓練を実施し、自らの命を守り抜く力を身につけること。

## 【期待される効果・ここがおすすめ!】

- ・地域の自然と共に暮らすことと防災が一体化して、ふるさとを愛し、誇りにできる生徒が育つこと。
- ・生徒たちが情報を発信したり共有したりすることにより、地域全体が防災に関する関心が高まり、住民一体となった防災が推進されていくこと。

## 2. プランの年間活動記録 (2013 年)

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
4 月	阿蘇火山博物館見 学	阿蘇の地形や特長を調 べ1年間の調査研究の テーマと内容を整理す る。	阿蘇の火山活動が地域にどのような 成り立ちであったか、またどのような 影響をもたらすのか学習し理解した。
5 月	阿蘇火山博物館芸 術員より講話	各班のテーマに沿った 調査項目や研究内容を 検討する。	地域の実態に合った火山に対する防 災の仕方を考えることができた。
6 月	防災マップ作製 自主防災訓練 学校安全委員会	各地域で小学校児童と 連携して危険箇所等を まとめておく。	マップに調べてきた登下校時の危険 箇所だけでなく防災の観点でまとめ ることができた。 関係機関や住民参加によるの訓練実 施。
7 月	熊本市防災センタ ー見学 ミニ避難訓練	地域の防災の実態を調 べておく。	熊本市の防災の実態を調べ、地域防災 の仕方と比較し、課題を整理すること ができた。
8 月	小中合同研修(教職 員)		県土木部砂防課、熊本地方気象台から 講師を招き、行政側からの防災に対す る取組の実態を理解した。
9 月	防災マップの掲示		ハザードマップを取りこみ、地域の住 民にも知っていただけるよう校舎内 と体育館に掲示した。
10 月			
11 月	自主防災訓練 学校安全委員会 実践発表会	避難訓練を振り返り課 題を整理する。調べて きたことをまとめ上げ る。	200名を超す参加者の方々にこれま で調べてきたことを情報として発信 することができた。
12 月	調べ学習班(学年縦 割り班)発表会	調べてきたことをまと め上げる。	保護者を中心に参加者全てに自分た ちでできることを発信することがで きた。
1 月			
2 月			
3 月			

## 3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号： 4、13】※3

タイトル	阿蘇火山博物館見学
実施月日（曜日）	4月18日（木）
実施場所	阿蘇市赤水
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 担当者 氏 名：阿蘇火山博物館長 池辺伸一郎 他4名 所属・役職等：阿蘇火山博物館学芸員
所要時間または「コマ数×単位時間」	一日（6単位時間）
プログラムのカテゴリ、形式※4	6, 10（自分たちが住む阿蘇の自然についての理解）
活動目的※5	阿蘇の地形や特長を知り、テーマ学習に生かす。
達成目標	阿蘇の自然の成り立ちや地形・特徴を知る。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	①阿蘇火山博物館の役割について知る。 ②学芸員の話聞きながら阿蘇火山の成り立ちを理解する。 ③カルデラ形成実験を行う。 ④博物館内を見学し、阿蘇の自然について理解する。 ⑤阿蘇中岳を見学する。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・阿蘇火山博物館の学芸員との学習内容等の検討
参加人数	全校生徒（58名）、教職員11名
経費の総額・内訳概要	なし（村補助金より支出）
成果と課題	【成果】 ・今回初めて阿蘇中岳を見た生徒も多く、身近に見た阿蘇の火山活動はこれからの活動意欲をかきたてる結果となった。 【課題】 ・調べたいことが多岐にわたってしまい、絞り込むことが難しくなった。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 6, 8】※3

タイトル	短学活の時間を利用した活動(ミニ自主防災訓練)
実施月日(曜日)	毎月1回(予告なし)
実施場所	本校敷地内
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏名：古賀 元博 所属・役職等：教諭
所要時間または「コマ数×単位時間」	10分×12回
プログラムのカテゴリ、形式※4	16
活動目的※5	安全に避難することが日常の活動となり、いざという時に慌てたり緊張したりすることがないようにする。
達成目標	自分で考え、安全に避難する。
実践方法・進め方(箇条書きまたはフロー)	①日時を職員や生徒たちに知らせない。 ②「緊急地震速報」のアラーム音だけで行動できるようにする。 ③身を守る体勢や避難行動について、教師側が評価する。 ④避難訓練の振り返りを行う。
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	「緊急地震速報」のアラーム音
参加人数	全校生徒(58名)
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】 ・回数を重ねるごとに無駄のない行動に近づいてきている。  【課題】 ・マンネリ化しないような工夫が必要である。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 16】※3

タイトル	関係諸機関と密着した自主防災訓練と学校安全委員会
実施月日（曜日）	6月20日（木）、11月1日（金）
実施場所	本校敷地内
担当者または講師	担当者・講師等の区分：消防署員 氏 名：阿蘇広域消防本部南部分署 荒牧博昭署長、他数名 所属・役職等：署長、消防署員
所要時間または「コマ数×単位時間」	避難訓練（1単位時間） 学校安全委員会（60分）
プログラムのカテゴリ、形式※4	16、 17（役場・消防署・消防団・区長等を含めた防災訓練のあり方を検討）
活動目的※5	自らの命を守り抜く力を身につける。
達成目標	自ら考え、判断し、安全に避難することができる。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	①消防署との打ち合わせを行う。（訓練担当職員のみ） ②避難訓練を実施する。 ③各学級で訓練の振り返りを行う。 ④学校安全委員会で職員の対応等について協議する。 ⑤反省を生かして、次回につなげる。
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	【学校安全委員会】 ・消防署員（4名）、役場防災担当職員（2名）、駐在区長（2名）、久木野小学校長、消防団副団長、PTA会長、学校評価員（4名） 久木野駐在所員、民生委員（6名）
参加人数	全校生徒、教職員、学校安全委員会構成員、消防団、消防署員等を合わせて、100名程度
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】 ・毎回、いろいろな点から指摘される反省点をもとに改善工夫を行うことができ、より現実的な訓練になりつつある。 【課題】 ・豪雨による土石流等に対する避難訓練の実施がまだ実施できていない。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。



#### 4. 苦労した点・工夫した点

<p><b>プランの立案 と調整で 苦労した点 工夫した点</b></p>	<p>防災教育を進めていくにあたり、最初に行った自主防災訓練では、事前に生徒に予告していた時間をずらし、昼休みに実施し、まだ訓練に対する心構えができていない状況下で実施した。「緊急地震速報」のアラーム音を聞いた生徒の一部は、その時活動していた一次避難場所であるグラウンドから火災発生場所を通り、教室に戻った。その後、教室で教師の指示を聞き、避難行動を取った。生徒にその行動の理由を聞いてみたところ、「自主防災訓練は、教室で先生の避難指示を聞いてから行動する。」という答えが返ってきたことに、これまでの訓練がいかにマニュアル通りのものであったか反省させられた。そういったことから、「自らの命を守り抜く」生徒を育成するために、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科、総合的な学習の時間、学級活動、道徳等、様々な教育課程に防災教育の位置づけをし、実践する。</li> <li>・短学活等、限られた時間の中で行えるミニプログラムを実施する。</li> <li>・「学校安全委員会」と連携し、様々な想定を取り入れた実践的な自主防災訓練を実施する。</li> <li>・学校安全計画を見直し、各教科等で防災教育を実践する。</li> </ul> <p>以上のことを盛り込みながら実践することを職員全体で共通理解を図った。</p>
<p><b>準備活動で 苦労した点 工夫した点</b></p>	<p><b>【苦労した点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災について専門的知見からアドバイスをいただくために、多くの専門家の方に来ていただいた。その際、中学生の発達段階に応じた内容、時間をどのようにすれば効果的か、打合せの時間が多く必要だった。</li> <li>・自主防災訓練においては、生徒には期日、内容を一切伝えず、さらに一部の職員にしか詳細を伝えないようにした。そのため、訓練では臨機応変な対応を求めた実践的な訓練になったが、その反面消防署等の関係機関と事前の綿密な打ち合わせが必要だった。</li> </ul> <p><b>【工夫した点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な学習の時間（縦割り班活動）では、前年度に九州北部豪雨被災地を見学することで、改めて災害は身近にあるものであるという認識を持たせることができた。また、各班のテーマ設定等、スムーズに活動を始めることができた。</li> </ul>
<p><b>実践に 当たって 苦労した点 工夫した点</b></p>	<p><b>【苦労した点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通学路の危険箇所とともに、土石流危険地域（レッドゾーン）など、複数の項目を一つのマップで表記する方法。</li> </ul> <p><b>【工夫した点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校区図に各危険箇所を示した項目ごとに透明板に書き込み、重ね合わせて掲示するようにして防災マップを完成させた。</li> <li>・地域へ情報を効果的に発信する内容と方法</li> <li>・縦割り班活動の調査では、地域住民からの聞き取りや体験活動を重視することで、地域とのつながりを大事にした。</li> </ul>

## 5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	<ul style="list-style-type: none"> <li>久木野小学校（本校生徒の出身校）</li> <li>学校評価委員</li> <li>岩手県釜石市吉浜中学校</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校安全委員会での協力</li> <li>震災の絆（生徒会を通しての交流）</li> </ul>
保護者・ PTAの組織	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校PTA全会員</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実践発表会での受け入れ等の協力</li> </ul>
地域組織	<ul style="list-style-type: none"> <li>民生委員</li> <li>地域消防団</li> <li>駐在区長</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校安全委員会での協力</li> <li>自主防災訓練での協力</li> </ul>
国・地方公共団体・ 公共施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>役場防災担当</li> <li>熊本地方气象台</li> <li>阿蘇火山博物館</li> <li>熊本県土木部砂防課</li> <li>熊本市防災センター</li> <li>久木野駐在所</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の防災への取組に関する講話</li> <li>阿蘇地域の火山活動に関する講話</li> <li>学校安全委員会での協力</li> </ul>
企業・ 産業関連の組合等		
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等		
職業、職能団体・ 学術組織、学会等	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本安全教育学会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員が研究集会に参加</li> </ul>

## 6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p><b>成果として 得たこと</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートの結果より、生徒たちの防災に関する意識の中で、緊急放送に対する意識が高まったことがわかった。また、家庭に帰って避難袋の中身が検討されたり、いざというとき自分たちが行くべき避難所の確認が行われたり、家庭を巻き込んだ防災意識の高揚も見られた。</li> <li>久木野地区においては、地域を挙げて防災訓練が行われたところもあり、地域の防災意識も高揚してきたことがわかった。</li> <li>学校だけの避難訓練にとどまらず、学校安全委員会で多くの関係諸機関の方からいただいた御意見や御示唆が大変役立った。関係機関との連携の仕方など、地域を巻き込んだ防災の取組とともにつながる期待が膨らんでいる。</li> <li>防災の視点に立った授業を構築し、実践していった結果、学習への集中力や意識の向上につながった。</li> </ul>
<p><b>全体の反省・ 感想・課題</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒たちの関心を高めるために、新しい情報を提供していくとともに、掲示等の工夫を行っていく必要がある。</li> <li>本校は緊急時の避難場所に指定されていないが、非常時の対処の仕方を学ぶ意味で、「避難所体験」等の取り入れていく必要がある。さらには、生徒を保護者に引き渡せない状況も想定しながら、一時的な水と食糧を確保するため、校区内のコンビニエンスストアとの事前協議を進めていく必要がある。</li> <li>自主防災訓練では、地震・火災を中心に行ったが、校舎の立地条件や学区内の地理的環境をとらえた火山活動や風水害等の訓練にも取り組む必要がある。</li> </ul>
<p><b>今後の 継続予定</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校安全計画の見直しを行い、継続して防災教育を進めていくための手立てを講じていく予定である。</li> <li>担当が変わっても継続して取り組める組織を構築していく。</li> </ul>



## 7. 自由記述欄 ※6

※6 自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守をお願いします。



岩手県吉浜中学校よりいただいた「復興のひまわり」を育てていった生徒たち



学校安全委員会で、自主防災訓練の内容について、様々な視点から意見を交わした。



小中学校合同の教職員研修会で県土木部砂防課、熊本地方気象台から講話をしていただいた、

透明シートを利用して、3種類のマップを1つの防災マップとして確認できるようにした。

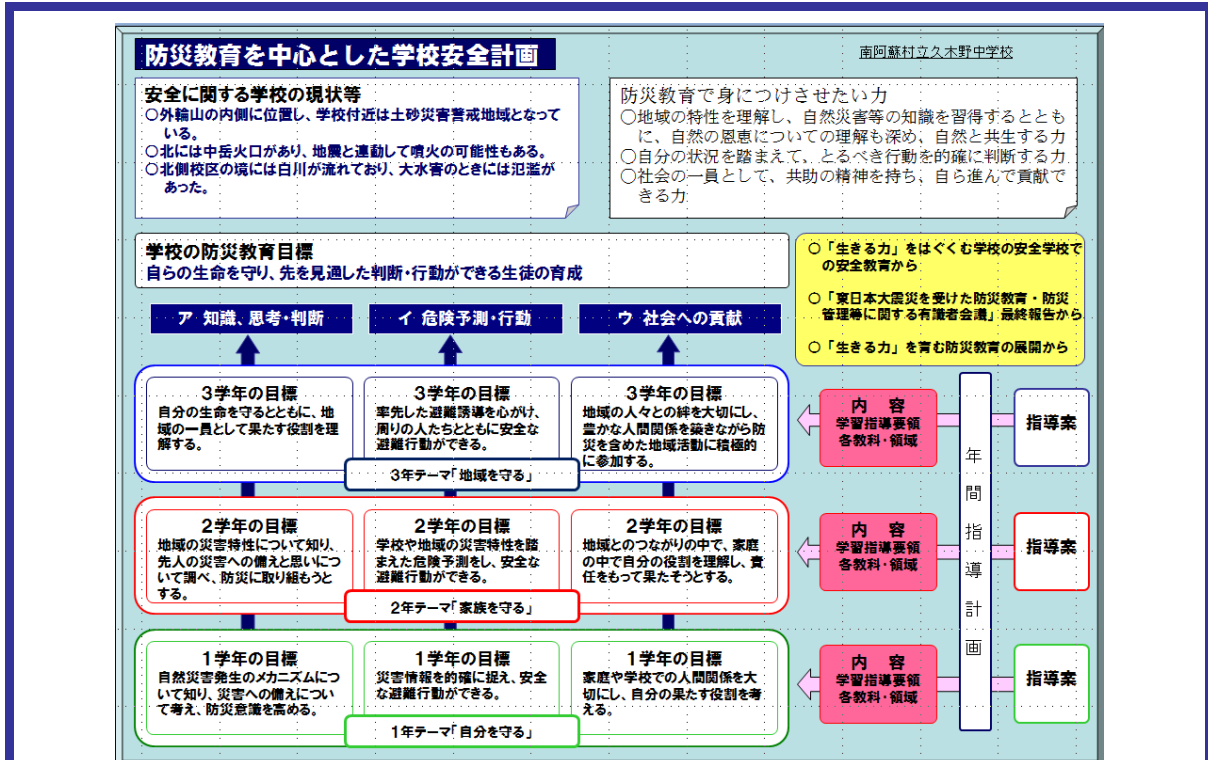


土砂災害ハザードマップ

↓ 駐在区ごとの安全マップ

↓ 水防ハザードマップ





久木野中学校学校安全計画



学級活動「地震から身を守る」

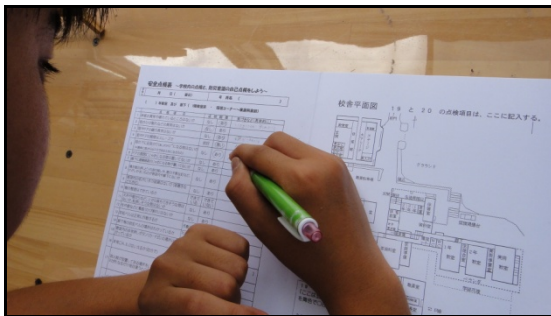
(自由記述: 1/3)



関係機関と連携した自主防災訓練



九州北部豪雨被災地見学（総合的な学習の時間）



生徒による安全点検



非常用備品の確認

引き渡しカード（記入例）

生徒氏名		写真 (学校で作成)
阿蘇 一郎		
緊急時に最も連絡のとれる可能性の高い連絡先をお書き下さい		
第1 連絡先	場所 自宅・勤務先(名称: 株式会社阿蘇)	続柄 父
	住所 (阿蘇市乙郷999)	
第2 連絡先	住所 (雨阿蘇河原999)	
	固定電話 (0967 - 99 - 8888)	
可能性の低い、引き渡し 先の連絡先	住所 (阿蘇市乙郷999)	
	固定電話 (090 - 9999 - 9999)	

2 引き渡しの判断基準  
「地震発生時」・「豪雨発生時」・「その他」の3つに状況を分け、引き渡しの判断基準を作成致しました。災害が発生した場合、もしくは発生すると予想される場合には、次の判断基準に従い、対応をお願いします。

**地震発生時**  
震度5以上・・・保護者に迎えを要請し、生徒は保護者が引き取りに来るまで学校にて待機させる。  
震度4以下・・・原則として通常通りの日課とする。ただし、交通機関に混乱が生じて、保護者が帰宅困難になることが予想される場合には、生徒を学校で保護して

生徒引き渡しカードと引渡しの手順

(自由記述: 2/3)

総合的な学習の時間

大テーマ「私たちの誇りであるふるさとを見つめなおす」

サブテーマ～久木野の暮らしと安全について～

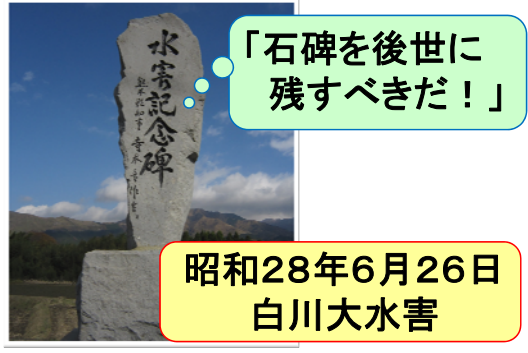
各班小テーマ

- 1 班「いろいろな地域の防災について調べ、私たちの生活に生かそう」
- 2 班「阿蘇火山と私たちの生活～雄大な自然による恵みと災害～」
- 3 班「私たちから発信する災害への備え～地域とともに私たちができること～」
- 4 班「災害と地形・地質の関係を解明し、私たちの生活を守る知恵にしよう」

地名の由来

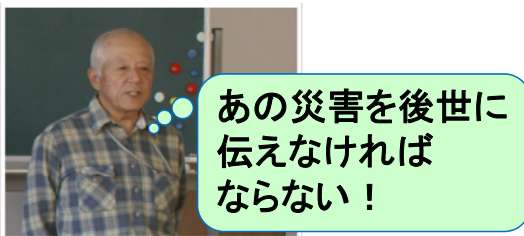


過去の災害に学ぶ



地域住民からの聞き取り

代々16人墓を守り続ける



立野地区 区長 後藤さん

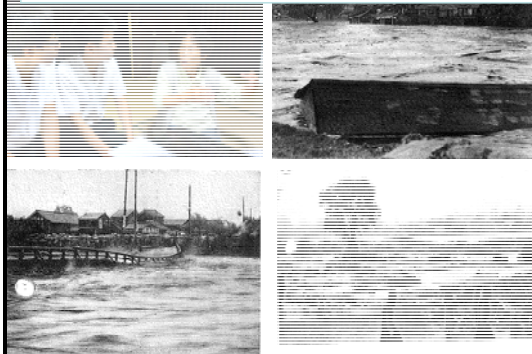
全校生徒で阿蘇火山博物館見学に



地域の環境特性を知る



6. 26水害についてインタビュー



### 九州北部豪雨の体験談



総合的な学習の時間（縦割り班）発表プレゼンスライド

(自由記述: 3/3)